

「科学雑誌で学ぶ日本語Ⅱ」作文練習 04

木下大輔

2022年03月09日

1 第一問

「覚えていたはずの人の名前や、お店の名称などが思い出せない」という文がありました。「…はず…」を含む文を作りなさい。

2 第二問

「そして、脳には記憶をつくって保持するしくみのみならず、積極的に記憶を失わせるしくみがあることもわかってきた。」という文がありました。「…のみならず…も…」を含む文を作りなさい。

3 第三問

「一方で、それまでにつくられた神経回路の切断や、作りすぎたニューロンやシナプスの除去が必要になる。」という文がありました。「…動詞 + 過ぎる…」を含む文を作りなさい。

4 第四問

「筆者の実感としても、些細なことをよく覚えている人がおり、記憶力のよさにおどろかされることがしばしばある。」という文がありました。「…しばしば…」を含む文を作りなさい。

5 第五問

「ただし、このような人が、普通の記憶力の人よりも快適な生活を送れるかということ、必ずしもそうではないようだ。」という文がありました。「…必ずしも…ない」を含む文を作りなさい。

6 第六問

「もうこわがる必要はないんだ」という文がありました。「…もう…」を含む文を作りなさい。

7 第七問

「メマンチンはアルツハイマー病の薬として開発され、すでに多くのアルツハイマー病患者に使われている薬だ。」という文がありました。「…すでに…」を含む文を作りなさい。

8 第八問

「この知見がそのままヒトにあてはまるかどうかは定かではないが、認知症患者の多くは、午後になると物忘れや徘徊などの症状が強くなる、夜眠れないなど、24時間のリズムを作り出す体内時計が狂っていることが多い。」という文がありました。「…定かではない…」を含む文を作りなさい。